

○川と海のクリーン大作戦(田原市西の浜)

10月18日、渥美半島の先端でもある西の浜海岸にて中部地方整備局のよびかけにより、「川と海のクリーン大作戦」が行われました。

これは、以前のようなふるさとの美しい川や海を取りもどし、次のこどもへと受け継いでいくことを目的に、地域住民の方々が一体となって川原や海岸での清掃活動を行うものです。

この日、晴天に恵まれたものの、かなりの強風でした。その中で集まったのは約50人。先日、東三河地域に大きな被害をもたらした台風18号の通過後ということもあり、海岸には沢山のゴミがうちあげられていました。



海岸での清掃作業の様子



集められたゴミの山

午前10時、一斉に清掃活動の開始です。ペットボトル・空き缶・空瓶・ボロボロの靴・発泡スチロール等の様々なゴミが落ちていました。1時間程の清掃活動でしたが参加した皆さんで沢山のゴミを拾いました。それでも、海岸にはまだまだゴミが落ちています。この光景を見て、いろいろ考えさせられる時もありました。

○衣浦港中央ふ頭東地区(碧南側)の岸壁耐震補強工事

衣浦港中央ふ頭地区の碧南側に位置する4号岸壁は、衣浦港における最大級の耐震強化岸壁(水深12M)として昭和58年に供用され、物流の中心施設として稼働しています。

耐震強化岸壁とは、大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資及び避難者の海上輸送を確保するために、通常のものより耐震性を強化した岸壁であり、東海・東南海地震の発生が懸念される中部地方における重要拠点の一つになっています。

しかし、当岸壁は供用開始から20年以上経過し、岸壁の主要材料である鋼材に錆による腐食が発生するなど、老朽化に伴う耐震機能の低下が判明したため、現在改良工事を実施しています。

4号岸壁の工事は、工場で加工した補強鋼板を岸壁からクレーンで吊下げ、海中の鋼が腐った部分に溶接をする作業をしています。

利用頻度の高い岸壁であるため、港の利用に支障がないよう離接岸する船舶や作業の安全に気を付けながら工事を進めています。



衣浦4号岸壁の位置



★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

○三河港港内見学(浜松市立砂丘小学校5年生)

○シーサイドジャズフェスティバル in みなとオアシスがまごおり

○台風18号直撃!事務所にも高潮が押し寄せました

○潮風を感じて港であそぼう in みなとオアシスがまごおり

○第4回 武豊ふれあい山車まつり

○三河港の港湾工事における安全確保の取り組み ○川と海のクリーン大作戦(田原市西の浜)

○衣浦港中央ふ頭東地区(碧南側)の岸壁耐震補強工事

☆CONTENTS☆

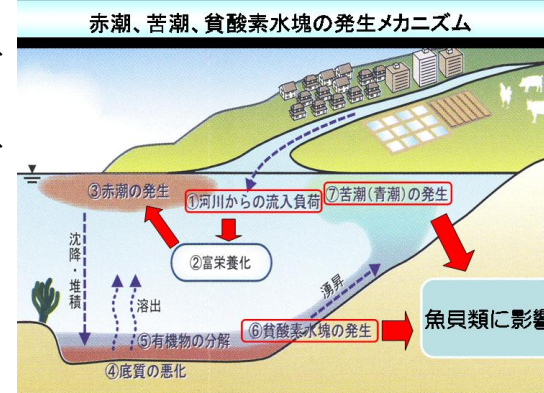
☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 平井 洋次

9月のシルバーウィークには、三重県に遊びに行きましたが、帰りは高速道路の渋滞にはまってしまい、サービスエリアも駐車するのに一苦労するという体験を初めて味わいました。実は行きは、伊良湖港から鳥羽港までフェリーで渡りましたので大変のんびりと、かつ早く移動することができました。高速道路の方が断然安く行けますので、高速道路で移動したい気もしますが、旅行の過程を楽しむという意味ではフェリーも良いものです。

さて、今年の夏は三河湾一帯において、思ったほど暑くなかったせいか、現時点において三河湾の貧酸素水塊が昨年ほど大きくなかったようです。

今年の貧酸素水塊の影響低下が今後とも続けばいいと思いますし、また、我々の海域環境創造事業の取り組みの成果もあって、貧酸素水塊が減っていると信じたいものです。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00~12:00と13:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

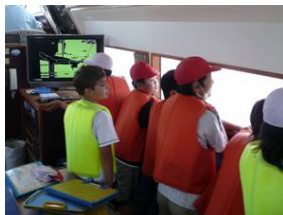
●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○三河港港内見学(浜松市立砂丘小学校5年生)

9月10日、浜松市立砂丘小学校5年生・52名が三河港を見学しました。これは5年生の社会科「我が国の工業や工業生産を支える貿易や運輸の動き」に関係する学習の一貫として、港と臨海産業の状況、港の役割などについて学ぶもので①港湾業務艇「しおさい」による海上からの港の見学、②バスによる陸上から埠頭などの見学、③ポートインフォメーションセンター・カモメリアでの港の学習の3本柱で三河港の役割などを総合的に紹介しました。

当日の天気は晴でしたが、風がやや強く、上下左右に揺れる船内は、喜んでしゃべりながら船酔いダウンする児童でてんこ舞い。自動車運搬船による自動車積込作業、造船所での船の組立作業、グラブ浚渫船による浚渫工事現場等を海上から見学してもらい、そのスケールの大きさに皆、驚いた様子でした。三河港の役割・重要性を知ってもらった1日だったと思います。



船内の子ども達の様子

○シーサイド ジャズ フェスティバル in みなとオアシスがまごおり



秋の夜空に響き渡るジャズサウンド

10月4日、みなとオアシスがまごおりの竹島ふ頭において、シーサイドジャズフェスティバルが開催されました。みなとオアシスがまごおりとして認定を受けた平成19年から始まったイベントで、今年で3年目を迎えます。

涼しげな秋の夜風の中で、みなとに停泊するヨットを眺めながら、ジャズを楽しめるこのイベントは非常に人気があり、ロコモだけで約170名の方が参加されました。昨年は約80名の参加者でしたので、今年は昨年の倍以上の参加者でした。

ジャズの音色とともに流れる時間はとても緩やかで、皆さんとてもリラックスしてジャズを楽しんでいる様子で、華やかな屋間の港の賑わいとはまた違ったひとときを感じることができるイベントでした。

○台風18号直撃！ 事務所にも高潮が押し寄せました

10月8日、台風18号が未明から朝にかけて東三河地方に直撃し、各地で大きな被害を出しました。先日の報道でもご存知かと思いますが、三河港神野ふ頭地区のコンテナターミナルにおいても、高潮と強風の影響で100個以上のコンテナが散乱する被害がありました。高潮で潮位が急激に上昇しコンテナ置場が浸水、重さ2t／個以上もあるコンテナが浮かび上がり、強風により押し流されたものと推測されます。

神野ふ頭地区にある当事務所においても、敷地内及び周辺道路が一時浸水する被害を受けました。高潮は、事務所正門より音も無く静かに押し寄せてきました。事務所敷地内に入り込んでから10分間程度で約40cmも浸水しました。敷地内へ流入してくる海水を間近で見ていたのですが、どこまで水位が上がるのだろうと不安でした。

今回の台風の影響を間近で感じたことで、改めて台風と高潮の恐ろしさを実感するとともに、港湾機能の維持・減災に向けた対応策、災害時における港のあり方などについて、これからも考えていきたいと思っています。



事務所正門（高潮前）



事務所正門（高潮中）

○潮風を感じて港で遊ぼう in みなとオアシスがまごおり



フラダンスショーを楽しむ人々

9月13日、みなとオアシスがまごおり（蒲郡市竹島ふ頭地区）でハワイアンバンドやフラダンスなどのイベントの「潮風を感じて港で遊ぼう」が、みなとオアシスがまごおり運営協議会の主催で行なわれました。三河湾を背景に緩やかなリズムに合わせてフラダンスが披露されハワイアンな雰囲気になりました。

みなとオアシスとは、みなとを核とした地域の方の交流促進や観光の振興を通じた地域の活性化を図るため、人々の賑わいや交流を創出するみなとの施設のうち、一定の要件を満たす施設を国が認定・登録しているものです。

これまでにみなとオアシスがまごおりでは、オープンカフェやジャズコンサート、ヨットの体験乗船など行なわれていましたが、このようなイベントは今回が初めての取り組みで、蒲郡市内外から約500人の方が訪れました。

○第4回 武豊ふれあい山車まつり

10月11日、武豊町において快晴の中、町内各地区の山車が一堂に会する「武豊ふれあい山車まつり」が開催されました。

5年に一度開催され4回目となる今年は、武豊町の町制55周年にあたり、連休も重なったことから観光客も大勢訪れ、まつりは大変賑わいました。

武豊の山車は全部で11台あり、江戸時代から大正時代に建造され、古いものでは寛政8年(1796年)建造の山車もあるなど大変歴史も古く、また精巧な彫刻やからくり人形を備えていることも特徴です。

まつりは、各地区から出発した山車を曳き廻しながら、メイン会場である武豊町民会館(ゆめたろうプラザ)へ集結し、三番曳(さんばそう)やからくり人形の実演などが披露されました。



秋晴れに生えるは華やかな山車

○三河港の港湾工事における安全確保の取り組み

三河港では現在防波堤の築造や航路泊地の浚渫などの港湾工事が行われています。港湾工事は大型の機械（船舶）を使うため、ひとつ間違えると重大な事故となる可能性があり、そのうえ海上という特殊条件のため海中転落や潜水事故ということにも気をつけなくてははいけません。そのため、事故が起これないように安全に対していろいろな取り組みを行っています。



関係者の努力のおかげで全産業における労務災害は長期的に見れば減少の傾向（死傷者数は20年前の約半分）であり、同様に建設業においても減少（20年前の約3分の1）の傾向が見られます。しかし、現在においても事故がなくなったわけではありません。

そんな安全への取り組みとして、現場においては作業手順の確認や毎日の朝礼で安全な作業方法の確認、安全教育などの取り組みを行っています。また、毎月発注者を含めた三河港港湾工事の関係者が集まって、現場の安全パトロールを行い、安全への対応策を話し合っています。9月には防波堤工事と浚渫工事の現場で安全パトロールを行い、いろいろな人の視点で危険な箇所の有無を確認しました。例えば防波堤工事では海への転落注意のために救命浮環を防波堤上に設置したり、浚渫工事では作業船の見易い所に安全標識を掲示し作業者の安全意識向上をねらったりする提案がありました。

今後もこの取り組みを継続して、事故のない工事を目指していきます。



救命浮輪の設置